

横浜市中期4か年計画(素案)について

(加納副委員長) 3ページ、ゲリラ豪雨などの浸水対策だとか、それから、ここに書いてある達成指標、時間50ミリ降雨における浸水対策の整備率を、河川85.8%、そして、平成25年度までに86.3%に持っていくということですが、暴れ川と言われている鶴見川は、総合治水対策にという課題もあって整備された、そして、たしか全国で3つ目か4つ目の特定都市河川浸水被害対策法というのに指定をされて、さらにそこで総合治水と合わせて、本市としても大変大きな対策を講じられた、それによって随分治水も含めて大変助かっていると思うのですが、その効果というのはどういうふうに感じているのですか。

(川口技監兼道路局長) 鶴見川でございますけれども、これは国管理、県管理、また、上流側のほうにつきまして市が管理しているところがございますけれども、これらの部分につきまして、周辺の土地利用も含めてやっているということで、例えば上流側の遊水池とかそういったものの計画等も位置づけられて、公共的な整備を進められてきたということでございます。したがって、この浸水対策というのは河堰の断面ということだけではなくて、例えば国におきます鶴見川の多目的遊水池といったような事業、私どもの進めております遊水池の整備、それから、民間の遊水池がございますけれども、こういったような事業のことを推進していく中で、安全率の向上が図られてきたということでございます。

現在、境川流域につきまして、この特定流域の工事の適用対象というものになるように、検討と調整をして、国・県にも働きかけをしているという状況でございます。

(加納副委員長) 私の住んでいるところは瀬谷区なのですが、今お話のあった境川もたしか緑、瀬谷、泉、戸塚、栄、こういった5つの各行政区にかかわって流れている川ですが、今言ったように、災害に強いまちづくりということからすると、一方で鶴見川がそういった形で今終わっていて、私どもが主張してきた境川もやはり同じように特定流域にすべきだという主張をしてきて、申請段階にあるということですが、見通しはどのようなのですか。

(中田担当理事兼河川部長) 今、神奈川県の方が作業を進めておりまして、神奈川県の方で今年度末、あるいは来年度早々に特定都市河川の流域の指定を実施したいということで、内部作業を進めておりまして、本市としても県と協働で調整を行っているところでございます。

(加納副委員長) そうすると、4か年の計画の中でさまざまな事業を進めていく、また、目標値も決めているのですが、一方で本市の鶴見川、そして、境川の特定流域の指定ができ上がったとすると、本市全体で何%ぐらいカバーできるのか。

(中田担当理事兼河川部長) 境川流域と鶴見川流域合わせて約70%がその特定都市河川の流域指定の区域になります。

(加納副委員長) そうしますと、本市全体の70%がそういった特定河川流域ということで指定される。70%というものとそういった効果を踏まえた上で、この4か年計画が進められているのかというのをちょっと聞きたい。

(中田担当理事兼河川部長) 今、鶴見川流域につきましては、その特定都市河川の流域の指定と同時に、整備計画もつくられておりまして、その整備計画に基づいて、鶴見川流域の河川事業も行われております。境川流域については、今実施されている河川の整備計画をベースに、特定整備計画を立てる予定になっておりますので、今の考え方が基本的な考え方になるかと思えます。

それで、特定都市河川の流域指定にかかりますと、一番大きな特徴は流域対策ということで、流域の中にあります雨水調整池、防災調整池を、開発などでつくられました調整池が、今までは河川改修が完了するまでの暫定という位置づけだったのですが、それが恒久化されるということで、施設としての位置づけが一步進んだ

形になります。そういうふうになりますと、防災調整池がなくなって、そこがまた開発されたりとかということがなくなって、流域全体としての治水安全度が維持されるという非常に大きな特徴がございますので、そういう意味でその効果も大きくなります。今持っていますそういう計画も、流域にあるそういった調整池を評価した上で計画を立てていくということになっておりますので、境川流域の計画の策定については、まだちょっと時間がかかるかと思いますが、そういうことも踏まえた上で、今回の4か年計画を策定しております。

（加納副委員長） 今のように、横浜市全体の4か年計画、この3ページ、4ページを見ると災害に強いまち、特に危機対応力の強化ということだとか、それから、これは環境創造局さんとの協働で行うゲリラ豪雨などの浸水対策、こういったようなことからして、いわゆる今の50ミリ降雨対応をどこまで持っていくかということで、1つ1つの川の問題も一方であるのだけれども、やはり本市は鶴見川のそういう特定流域の問題も進めてきているわけで、境川についても申請をしていただいて、両方から挟み込んで、横浜市全体の70%をカバーするのだと。そのカバーをする上で、やはりしっかり浸水対策を進めていただきたいという主張もしてきたのですけれども、この4か年計画の中には今の中田理事の御答弁など、そういったことを含めて入っているのだということの認識でいいのか、再度確認だけして終わらせていただきたいと思います。

（中田担当理事兼河川部長） そういうことでございます。

舞岡上郷線検討委員会の開催状況等について

（加納副委員長） 今の議論を聞いていまして、今回第2回、第3回と検討委員会を進めてきていただいて、それを毎回常任委員会に報告してもらおうということの中で、きょうも報告をいただいています。それで、大変多くの時間を使っていただいて議論をして、ただ、ちょっとどうも質問と答弁を聞いていると、なかなか平行線の部分があると私は思うのです。井上委員のほうから最後に、各行政のほうでしっかりそれは重く受けとめていただきたいと。ということは、この委員会での議論をしっかりと検討委員会のほうに伝えていただいて、やはり今、各委員のほうからの質問、意見、要望ですね、これはしっかりと伝えていただきたい。その上で多分今後、細かな検討もそれを踏まえながら進んでいただけるだろうなと思いますので、井上委員、そういうふうな報告をいただくということでどうでしょう。しっかりと当局が検討委員会に伝えていただくと。その上でまた報告をいただくという形をとったらどうかと思うのですけれども、局長、いかがでしょうか。

（川口技監兼道路局長） 第3回の委員会でもそういう話を始めておりますので、そういったことにつきましても、委員会の委員の皆様からの御意見等もいただいて、方向性を出していきたいと思います。